

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成29年11月9日(2017.11.9)

【公表番号】特表2016-534983(P2016-534983A)

【公表日】平成28年11月10日(2016.11.10)

【年通号数】公開・登録公報2016-063

【出願番号】特願2016-518681(P2016-518681)

【国際特許分類】

A 01 N	25/00	(2006.01)
A 01 N	25/16	(2006.01)
A 01 N	53/06	(2006.01)
A 01 P	7/04	(2006.01)
A 01 N	25/04	(2006.01)
A 01 M	7/00	(2006.01)

【F I】

A 01 N	25/00	1 0 1
A 01 N	25/16	
A 01 N	53/00	5 0 6 Z
A 01 P	7/04	
A 01 N	25/04	1 0 2
A 01 N	25/04	1 0 1
A 01 N	25/00	1 0 2
A 01 M	7/00	U

【手続補正書】

【提出日】平成29年9月28日(2017.9.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

さらに、いくつかの地域では、大量に水を使用できない。多くの農薬活性物質は、スプレードリフトする脆弱性があり、正確に適用し得ないスプレーで作物や土壤に適用される。活性成分は、典型的には、フィールドまたは農作物にスプレーされる前にタンクに加えられ、水のような希釈剤と混合される。活性成分は、例えば、乳剤(E C)、水分散性粒剤(W G)、マイクロカプセル(M E)、または懸濁剤(S C)のような多くの既知の製剤種のいずれか1つであり得る。希釈した後、現在既知の製剤および技術を用いた場合、典型的な適用率は、約3~25ガロン/エーカーからである。典型的な割合で500エーカーへの適用は、1500~12,500ガロンの液体を必要とする。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

本実施形態の別の態様において、液体農薬製剤は農薬泡状物質を作るために発泡され得る。得られた泡状物質は、前の実施形態の液体農薬製剤と気体とを含む。本実施形態の1つの態様において、気体は空気である。本実施形態の別の態様において、泡状物質は、溝

内の種に投与された場合、作物保護効果を提供し得る。本実施形態のさらなる態様において、泡状物質は、15、25、40、50、60、70、80、90または100の膨張係数を有し得る。別の態様において、泡状物質は、40および60の間の範囲の膨張係数を有し得る。本実施形態の別の態様において、農薬的活性成分は、マイクロエマルジョン、水中油型濃縮エマルジョン、懸濁液、懸濁剤、乳剤、またはマイクロカプセルの形態で液体農薬製剤中に存在する。本実施形態の好ましい態様において、農薬活性成分は懸濁剤の形態である。本実施形態のさらなる態様において、懸濁剤は二年のタイムスケールに渡って安定である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

発泡性製剤の有効成分は、除草剤、殺虫剤、殺菌剤、肥料またはそれらの組み合わせを含む懸濁剤または他の適切な製剤型に製剤化され得る農薬上適切な活性成分である。発泡性製剤中の活性成分の最終濃度は、0.1~6.001b.s.a.i./ガロン、0.75~4.001b.s.a.i./ガロンの範囲であり、好ましくは0.75~2.001b.s.a.i./ガロンの範囲であり得る。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0032】

殺菌剤：B1)ビテルタノール、プロムコナゾール、シプロコナゾール、ジフェノコナゾール、ジニコナゾール(diniconazole)、エニルコナゾール、エポキシコナゾール、フルキンコナゾール、フェンブコナゾール、フルシラゾール、フルトリアホール、ヘキサコナゾール、イミベンコナゾール(imibenconazole)、イブコナゾール、メトコナゾール、ミクロブタニル、ベンコナゾール、プロピコナゾール、プロチオコナゾール、シメコナゾール、トリアジメホン、トリアジメノール、テブコナゾール、テトラコナゾール、トリチコナゾール、プロクロラズ、ペフラゾエート(pefurazone)、イマザリル、トリフルミゾール、シアゾファミド、ベノミル、カルベンダジム、チアベンダゾール、フベリダゾール、エタボキサム、エトリジアゾールおよびヒメキサゾール、アザコナゾール、ジニコナゾール-M(diniconazole-M)、オキスピコナゾール(oxipociconazole)、パクロブトラゾール、ウニコナゾール、1-(4-クロロ-フェニル)-2-([1,2,4]トリアゾール-1-イル)-シクロヘプタノール並びにイマザリルスルフェート(imazalil sulphate)からなる群から選択されるアゾール；B2)アゾキシストロビン、ジモキシストロビン、エネストロブリン(enestroburin)、フルオキサストロビン、クレソキシムメチル、メトミノストロビン、オリサストロビン、ピコキシストロビン、ピラクロストロビン、トリフロキシストロビン、エネストロブリン(enestroburin)、メチル(2-クロロ-541-(3-メチルベンジルオキシイミノ)エチル]ベンジル)カルバメート、メチル(2-クロロ-5-[1-(6-メチルピリジン-2-イルメトキシイミノ)エチル]ベンジル)カルバメートおよびメチル2-(オルト-(2,5-ジメチルフェニルオキシメチレン)-フェニル)-3-メトキシアクリレート、2-(2-(6-(3-クロロ-2-メチル-フェノキシ)-5-フルオロ-ピリミジン-4-イルオキシ)-フェニル)-2-メトキシイミノ-N-メチル-アセトアミド、および3-メトキシ-2-(2-(N-(4-メトキシ-フェニル)-シクロプロパンカルボキシイミド)フルスルファニルメチル)-フェニル)-アクリル酸メチルエステルからなる群から選択さ

れるストロビルリン；B 3) カルボキシン、ベナラキシル、ベナラキシル - M、フェンヘキサミド、フルトラニル、フラメトピル、メプロニル、メタラキシル、メフェノキサム、オフレース (ofurace)、オキサジキシル、オキシカルボキシン、ベンチオピラド、イソピラザム、チフルザミド、チアジニル、3，4 - ジクロロ - N - (2 - シアノフェニル) イソチアゾール - 5 - カルボキサミド、ジメトモルフ、フルモルフ、フルメトベル (flumetover)、フルオピコリド (ピコベンズアミド)、ゾキサミド、カルプロパミド、ジクロシメット、マンジプロパミド、N - (2 - (443 - (4 - クロロフェニル) プロパ - 2 - インイルオキシ] - 3 - メトキシフェニル) エチル) - 2 - メタンスルホニル - アミノ - 3 - メチルブチルアミド、N - (2 - (4 - [3 - (4 - クロロ - フェニル) プロパ - 2 - インイルオキシ] - 3 - メトキシフェニル) エチル) - 2 - エタンスルホニルアミノ - 3 - メチルブチルアミド、メチル - 3 - (4 - クロロフェニル) - 3 - (2 - イソプロポキシカルボニル - アミノ - 3 - メチル - ブチリルアミノ) プロピオネート、N - (4' - ブロモビフェニル - 2 - イル) - 4 - ジフルオロメチル A - メチルチアゾール - 6 - カルボキサミド、N - (4' - トリフルオロメチル - ビフェニル - 2 - イル) - 4 - ジフルオロメチル - 2 - メチルチアゾール - 5 - カルボキサミド、N - (4' - クロロ - 3' - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 4 - ジフルオロメチル - 2 - メチル - チアゾール - 5 - カルボキサミド、N - (3\4' - ジクロロ - 4 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 3 - ジフルオロメチル - 1 - メチルピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (3'，4' - ジクロロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 3 - ジフルオロメチル - 1 - メチルピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (2 - シアノ - フェニル) - 3,4 - ジクロロイソチアゾール - 5 - カルボキサミド、2 - アミノ - 4 - メチル - チアゾール - 5 - カルボキシアニリド、2 - クロロ - N - (1,1,3 - トリメチル - インダン - 4 - イル) - ニコチンアミド、N - (2 - (1,3 - ジメチルブチル) - フェニル) - 1,3 - ジメチル - 5 - フルオロ - 1H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4' - クロロ - 3'，5 - ジフルオロ - ビフェニル - 2 - イル) - 3 - ジフルオロメチル - 1 - メチル - 1H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4' - クロロ - 3'，5 - ジフルオロ - ビフェニル - 2 - イル) - 3 - トリフルオロメチル - 1 - メチル - 1H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (3'，4' - ジクロロ - 5 - フルオロ - ビフェニル - 2 - イル) - 3 - トリフルオロメチル - 1 - メチル - 1H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (3'，5 - ジフルオロ - 4' - メチル - ビフェニル - 2 - イル) - 3 - ジフルオロメチル - 1 - メチル - 1H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (3'，5 - ジフルオロ - 4' - メチル - ビフェニル - 2 - イル) - 3 - トリフルオロメチル - 1 - メチル - 1H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (シス - 2 - ビシクロプロピル - 2 - イル - フェニル) - 3 - ジフルオロメチル - 1 - メチル - 1H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (トランス - 2 - ビシクロプロピル - 2 - イル - フェニル) - 3 - ジフルオロ - メチル - 1 - メチル - 1H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、フルオピラム、N - (3 - エチル - 3,5 - 5 - トリメチル - シクロヘキシル) - 3 - ホルミルアミノ - 2 - ヒドロキシ - ベンズアミド、オキシテトラサイクリン、シルチオファム、N - (6 - メトキシ - ピリジン - 3 - イル) シクロプロパンカルボキサミド、2 - ヨード - N - フェニル - ベンズアミド、N - (2 - ビシクロ - プロピル - 2 - イル - フェニル) - 3 - ジフルオロメチル - 1 - メチルピラゾール - 4 - イルカルボキサミド、N - (3'，4'，5' - トリフルオロビフェニル - 2 - イル) - 1,3 - ジメチルピラゾール - 4 - イルカルボキサミド、N - (3'，4'，5' - トリフルオロビフェニル - 2 - イル) - 5 - クロロ - 1,3 - ジメチル - ピラゾール - 4 - イルカルボキサミド、N - (3'，4'，5' - トリフルオロビフェニル - 2 - イル) - 1,3 - ジメチル - 5 - フルオロピラゾール - 4 - イル - カルボキサミド、N - (3'，4'，5' - トリフルオロビフェニル - 2 - イル) - 5 - クロロ - 1,3 - ジメチル - ピラゾール - 4 - イルカルボキサミド、N - (3'，4'，5' - トリフルオロビフェニル - 2 - イル) - 3 - フルオロメチル - 1 - メチルピラゾール - 4 - イルカルボキサミド、N - (3'，4'，5' - トリフルオロビフェニル - 2 - イル) - 3 - (クロロフルオロメチル) - 1 - メチルピラゾール - 4 - イルカルボキサミド、N - (3'，4'，5' - トリフルオロビフェニル - 2 - イル) - 3 - ジフルオロメチル - 1 - メチルピラゾール - 4 - イ

- 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (3 ' , 4 ' - ジクロロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - S - ジフルオロメチル - 1 H - ピラゾールカルボキサミド、N - (3 ' , 4 ' - ジフルオロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - ジフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (3 ' , 4 ' - ジクロロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 , 3 - ジメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (3 ' - クロロ - 4 ' - フルオロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - ジフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4 - フルオロ - 4 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4 ' - フルオロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4 ' - クロロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4 ' - メチル - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4 ' - フルオロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 , 3 - ジメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4 ' - クロロ - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 , 3 - ジメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4 ' - メチル - 5 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 , 3 - ジメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4 ' - フルオロ - 6 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - (4 ' - クロロ - 6 - フルオロビフェニル - 2 - イル) - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - [2 - (1 , 1 , 2 , 3 , 3 , 3 - ヘキサフルオロプロポキシ) - フェニル] - 3 - ジフルオロメチル - 1 - メチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、N - [4 ' - (トリフルオロメチルチオ) - ビフェニル - 2 - イル] - 3 - ジフルオロメチル - 1 - メチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミド、および N 4 4 ' - (トリフルオロメチルチオ) - ビフェニル - 2 - イル] - 1 - メチル - 3 - トリフルオロメチル - 1 - メチル - 1 H - ピラゾール - 4 - カルボキサミドからなる群から選択されるカルボキサミド；
 B 4) フルアジナム、ピリフェノックス (p y r i f e n o x) 、ブピリメート、シプロジニル、フェナリモル、フェリムゾン、メパニピリム、ヌアリモル、ピリメタニル、トリフォリン、フェンピクロニル、フルジオキソニル、アルジモルフ、ドデモルフ、フェンプロピモルフ、トリデモルフ、フェンプロピジン、イプロジオン、プロシミドン、ビンクロゾリン、ファモキサドン、フェンアミドン、オクチリノン (o c t h i l i n o n e) 、プロベン (p r o b e n) - アゾール、5 - クロロ - 7 - (4 - メチルピペリジン - 1 - イル) - 6 - (2 , 4 , 6 - トリフルオロフェニル) 4 1 , 2 , 4] トリアゾロ [1 , 5 - a] ピリミジン、アニラジン、ジクロメジン、ピロキロン、プロキナジド (p r o q u i n a z i d) 、トリシクラゾール、2 - ブトキシ - 6 - ヨード - 3 - プロピルクロメン (p r o p y l c h r o m e n) - 4 - オン、アシベンゾラル - S - メチル、カプタホール、キャプタン、ダゾメット、ホルベット、フェノキサニル、キノキシフェン、N , N - ジメチル - 3 - (3 - ブロモ - 6 - フルオロ - 2 - メチルインドール - 1 - スルホニル) - [1 , 2 , 4] トリアゾール - 1 - スルホンアミド、5 - エチル - 6 - オクチル 4 1 , 2 , 4] トリアゾロ [1 , 5 - a] ピリミジン - 2 , 7 - ジアミン、2 , 3 , 5 , 6 - テトラクロロ - 4 - メタンスルホニル - ピリジン、3 , 4 , 5 - トリクロロピリジン - 2 , 6 - ジカルボニトリル、N - (1 - (5 - ブロモ - 3 - クロロ - ピリジン - 2 - イル) - エチル) - 2 , 4 - ジクロロニコチンアミド、N - ((5 - ブロモ - 3 - クロロピリジン - 2 - イル) - メチル) - 2 , 4 - ジクロロ - ニコチンアミド、ジフルメトリム、ニトラピリン、ドデモルファセテート (d o d e m o r p h a c e t a t e) 、フルオロイミド、プラスチサイシン - S 、キノメチオネート、デバカルブ、ジフェンゾクワット、ジフェンゾクワット - メチルスルフェート (m e t h y l s u l p h a t) 、オキソリン酸およびピペラリンからなる群から選択される複素環式化合物；B 5) マンコゼブ、マネブ、メ

タム、メタルホカルブ (methasulphocarb) 、メチラム、フェルバム、プロピネブ、チラム、ジネブ、ジラム、ジエトフェンカルブ、イプロバリカルブ、ベンチアバリカルブ、プロパモカルブ、プロパモカルブ塩酸塩、4 - フルオロフェニル - N - (1 - (1 - (4 - シアノフェニル) - エタンスルホニル) プト - 2 - イル) カルバメート、メチル - 3 - (4 - クロロ - フェニル) - 3 - (2 - イソプロキシカルボニルアミノ - 3 - メチル - ブチリルアミノ) プロパンエートからなる群から選択されるカルバメート；またはB6) グアニジン、ドジン、ドジン遊離塩基、イミノクタジン、グアザチン、抗生物質、例えば、カスガマイシン、ストレプトマイシン、ポリオキシン、バリダマイシンA、ニトロフェニル誘導体：ビナパクリル、ジノカップ、ジノブトン、硫黄含有複素環式化合物：ジチアノン、イソプロチオラン、有機金属化合物：フェンチン塩、有機リン化合物：エジフェンホス、イプロベンホス、ホセチル、ホセチル - アルミニウム、亜リン酸およびその塩、ピラゾホス、トルクロホスメチル、有機塩素化合物：ジクロフルアニド、フルスルファミド、ヘキサクロロベンゼン、フタリド、ベンシクロロン、キントゼン、チオファンネートメチル、トリルフルアニド、その他：シフルフェナミド、シモキサニル、ジメチリモール、エチリモール、フララキシリ、メトラフェノンおよびスピロキサミン、グアザチン酢酸塩、イミノクタジン - トリアセテート、イミノクタジントリス(アルベシレート(abbreviated))、カスガマイシン塩酸塩水和物、ジクロロフェン、ペンタクロロフェノール及びその塩、N - (4 - クロロ - 2 - ニトロ - フェニル) - N - エチル - 4 - メチル - ベンゼンスルホニアミド、ジクロラン、ニトロタールイソプロピル、テクナゼン、ビフェニル、ブロノポール、ジフェニルアミン、ミルジオマイシン、オキシン銅(cinchopper)、プロヘキサジオンカルシウム、N - (シクロプロピルメトキシ)ミノ - (6 - ジフルオロメトキシ - 2 , 3 - ジフルオロフェニル) - メチル) - 2 - フェニルアセトアミド、N' - (4 - (4 - クロロ - 3 - トリフルオロメチル - フェノキシ) - 2 , 5 - ジメチル - フェニル) - N - エチル - N - メチルホルムアミジン、N' - (4 - (4 - フルオロ - 3 - トリフルオロメチル - フェノキシ) - 2 , 5 - ジメチル - フェニル) - N - エチル - N - メチルホルムアミジン、N' - (2 - メチル - 5 - トリフルオロメチル - 4 - (3 - トリメチルシラニル - プロポキシ) - フェニル) - N - エチル - N - メチルホルムアミジンおよびN' - (5 - ジフルオロメチル - 2 - メチル - 4 - (3 - トリメチルシラニル - プロポキシ) - フェニル) - N - エチル - N - メチルホルムアミジンからなる群から選択される他の殺菌剤、およびそれらの任意の組み合わせ。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

除草剤：C1) アセチルCoAカルボキシラーゼ阻害剤(ACC)、例えば、アロキシジム、クレトジム、クロプロキシジム(cloproxydim)、シクロキシジム、セトキシジム、トラルコキシジム、ブトロキシジム、クレフオキシジム(clefoxidim)またはテプラロキシジムのようなシクロヘキセノンオキシムエーテル：クロジナホッププロパルギル、シハロホップブチル、ジクロホップメチル、フェノキサプロップエチル、フェノキサプロップ - P - エチルまたはフェンチアプロップエチル(fenthia propethyl)、フルアジホップブチル、フルアジホップ - P - ブチル、ハロキシホップエトキシリル、ハロキシホップメチル、ハロキシホップ - P - メチル、イソキサピリホップ、プロパキザホップ、キザロホップエチル、キザロホップ - P - エチルまたはキザロホップテフリルのようなフェノキシフェノキシプロピオン酸エステル：またはフランプロップ(flamprop)メチルまたはフランプロップイソプロピルなどのアリールアミノプロピオン酸；C2) アセト乳酸塩合成酵素阻害剤(AS)、例えば、イマザビル、イマザキン、イマザメタベンズ - メチル(imazame)、イマザモックス、イマザピックまたはイマゼタピルのようなイミダゾリノン；ピリチオバッカ酸、ピリチオバッ

クナトリウム、ビスピリバック - ナトリウム、KIH-6127またはピリベンゾキシム(pyribenzoxyim)のようなピリミジルエーテル；フロラスラム、フルメトラムまたはメトラムのようなスルホニアミド；または、アミドスルフロン、アジムスルフロン、ベンスルフロンメチル、クロリムロン - エチル、クロルスルフロン、シノスルフロン、シクロスルファムロン、エタメトスルフロンメチル、エトキシスルフロン、フラザスルフロン、ハロスルフロンメチル、イマゾスルフロン、メトスルフロンメチル、ニコスルフロン、ブリミスルフロンメチル、プロスルフロン、ピラゾスルフロン - エチル、リムスルフロン、スルホメツロンメチル、チフェンスルフロンメチル、トリアスルフロン、トリベヌロン - メチル、トリフルスルフロンメチル、トリトスルフロン、スルホスルフロン、ホラムスルフロンまたはヨードスルフロンのようなスルホニル尿素；C3)例えば、アリドクロル(CDAA)、ベンゾイルプロップ - エチル、プロモブチド、クロルチアミド、ジフェナミド、エトベンザニジベンズクロメト(etobenzanidibenzchloromet)、フルチアミド、ホサミン(fosamin)、またはモナリド(monalide)のようなアミド；C4)オーキシン除草剤、例えば、クロピラリド若しくはピクロラムのようなピリジンカルボン酸；または2,4-D若しくはベナゾリン；C5)オーキシン輸送阻害剤、例えば、ナプタラメ(naptalam)またはジフルフェンゾビル；C6)カロテノイド生合成阻害剤、例えば、ベンゾフェナップ、クロマゾン(ジメタゾン)、ジフルフェニカン、フルオロクロリドン、フルリドン、ピラゾリネット、ピラゾキシフェン、イソキサフルトール、イソキサクロルトール、メソトリオン、スルコトリオン(クロルメスロン)、ケトスピラドックス、フルルタモン、ノルフルラゾンまたはアミトロール(amitrol)；C7)エノールビルビルシキミ酸塩-3-リン酸塩合成酵素阻害剤(EPSPS)、例えば、グリホサートまたはスルホサート；C8)グルタミン合成酵素阻害剤、例えば、ビアラホス(bialafos, bialaphos)またはグルホシネート-アンモニウム；C9)脂質生合成阻害剤、例えば、アニロホス若しくはメフェナセットのようなアニリド；ジメテナミド、S-ジメテナミド、アセトクロール、アラクロール、ブタクロール、ブテナクロール、ジエタチルエチル、ジメタクロール、メタザクロール、メトラクロール、S-メトラクロール、プレチラクロール、プロパクロール、ブリナクロール、テルブクロール、テニルクロール若しくはキシラクロールのようなクロロアセトアニリド、；ブチレート、シクロエート、ジアレート、ジメピペレート、EPTC.エスプロカルブ、モリネット、ペブレート、プロスルホカルブ、チオベンカルブ(ベンチオカルブ)、トリアレート若しくはバーナレート(vemolate)のようなチオ尿素、またはベンフレセートまたはパーフルイドン；C10)有糸分裂阻害剤、例えば、アシュラム、カルベタミド(carbetamid)、クロルプロファム、オルベンカルブ、プロナミド(pronamid)(プロビズアミド(propyzamide))、プロファム若しくはチオカルバジルのようなカルバメート；ベネフィン、ブトラリン、ジニトラミン(dinitramin)、エタルフルラリン、フルクロラリン、オリザリン、ペンジメタリン、プロジェアミン若しくはトリフルラリンのようなジニトロアニリン；ジチオピル若しくはチアゾピルのようなピリジン；またはブタミホス、クロルタールジメチル(DCPA)若しくはマレイン酸ヒドラジド；C11)プロトポルフィリノーゲンIXオキシダーゼ阻害剤、例えば、アシフルオルフェン、アシフルオルフェン-ナトリウム、アクロニフェン、ビフェノックス、クロロニトロフェン(CNP)、エトキシフェン、フルオロジフェン、フルオログリコフェンエチル、フォメサフェン、フリロキシフェン、ラクトフェン、ニトロフェン、ニトロフルオルフェン若しくはオキシフルオルフェンのようなジフェニルエーテル；オキサジアルギル若しくはオキサジアゾンのようなオキサジアゾール；アザフェニジン、ブタフェナシル、カルフェントラゾンエチル、シニドン-エチル、フルミクロラックペンチル、フルミオキサジン、フルミプロピン、フルプロパシル(fluropacil)、フルチアセットメチル、スルフェントラゾン若しくはチジアジミンのような環状イミド；または、ET-751.JV 485若しくはニピラクロフェンのようなピラゾール；C12)光合成阻害剤、例えば、プロバニル、ピリデート若しくはピリダフォル；ベンタゾンのようなベンゾチアジアゾン；ジニトロフェノール、

例えば、プロモフェノキシム、ジノセブ、ジノセブアセテート、ジノテルブ若しくはD N O C ; シペルクアット - 塩化物、ジフェンゾクワット - メチルスルフェート、ジクワット若しくはパラコートジクロリドのようなジピリジレン；クロルプロムロン、クロロトルロン、ジフェノクスロン (difenoxyuron) 、ジメフロン、ジウロン、エチジムロン、フェヌロン、フルオメツロン、イソプロトウロニソウロン (isoproturon isouron) 、リヌロン、メタベンズチアズロン、メタゾール、メトベンズロン、メトキスロン、モノリニュロン、ネブロン、シデュロン若しくはテブチウロンのような尿素；プロモキシニル若しくはイオキシニルのようなフェノール；クロリダゾン；アメトリン、アトラジン、シアナジン、デスマイン、ジメタメトリン、ヘキサジノン、プロメトン、プロメトリン、プロパジン、シマジン、シメトリン、テルブメトン、テルブトリン、テルブチラジン若しくはトリエタジンのようなトリアジン；メタミトロン若しくはメトリブジンのようなトリアジノン；プロマシル、レナシル若しくはテルバシルのようなウラシル；またはデスマジファム若しくはフェンメジファムのようなビスカルバメート；C 13) 相乗剤、例えば、トリジファンのようなオキシラン；C 14) CIS細胞壁合成阻害剤、例えば、イソキサベンまたはジクロベニル；C 16) 様々な他の除草剤、例えば、ダラポンのようなジクロロプロピオン酸；エトフメセートのようなジヒドロベンゾフラン；クロルフェナック (フェナック (f en a c)) のようなフェニル酢酸；または、アジプロトリン、バルバン、ベンスリド、ベンズチアズロン、ベンゾフルオール、ブミナホス、ブチダゾール、ブツロン、カフェンストロール、クロルブファム、クロルフェンプロップメチル、クロロクスロン、シンメチリン、クミルロン、シクルロン、シプラジン、シプラゾール、ジベンジルロン、ジプロペトリン、ダイムロン、エグリナジンエチル、エンドタール、エチオジン、フルカバゾン、フルオルベントラニル、フルポキサム、イソカルバミド、イソプロパリン、カルブチレート、メフルイジド、モヌロン、ナプロップアミド、ナプロップアニリド、ニトラリン、オキサシクロメフォン (oxaciclomefone) 、フェニソファム、ピペロホス、プロシアジン、プロフルアリン、ピリブチカルブ、セクブメトン、スルファレート (DEC) 、テルブカルブ、トリアジフラム、トリアゾフェナミド若しくはトリメツロン；またはそれらの環境適合性塩若しくはそれらの組み合わせ。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

植物生長調節剤：D 1) クロフィブリン酸、2 , 3 , 5 - トリヨード安息香酸のようなアンチオーキシン；D 2) 4 - CPA、2 , 4 - D、2 , 4 - DB、2 , 4 - DEP、ジクロルプロップ、フェノプロップ、IAA、IBA、ナフタレンアセトアミド、a - ナフタレン酢酸、1 - ナフトール、ナフトキシ酢酸、ナフテン酸カリウム、ナフテン酸ナトリウム、2 , 4 , 5 - Tのようなオーキシン；D 3) 2 i P、ベンジルアデニン、4 - ヒドロキシフェンエチルアルコール、カイネチン、ゼアチンのようなサイトカイニン；D 4) 例えは、カルシウムシアナミド、ジメチピン、エンドタール、エセフォン、メルホス、メトクスロン、ペンタクロロフェノール、チジアズロン、トリブホスのような枯葉剤；D 5) アビグリシン、1 - メチルシクロプロパンのようなエチレン阻害剤；D 6) ACC、エタセラシル、エテホン、グリオキシムのようなエチレン放出剤；D 7) フェンリダゾン、マレイン酸ヒドラジドのようなガメトシド；D 8) ジベレリン、ジベレリン酸のようなジベレリン；D 9) アブシジン酸、アンシミドール、ブトラリン、カルバリル、クロルホニウム、クロルプロファム、ジケグラック、フルメトラリン、フルオリドアミド、ホサミン、グリホジン、イソピリモル、ジャスモン酸、マレイン酸ヒドラジド、メピコート、ピプロクタニル、プロヒドロジャスモン、プロファム、チアオジアン (tiaojiean) 、2 , 3 , 5 - トリヨード安息香酸のような成長阻害剤；D 10) クロルフルレン、クロルフレノール、ジクロルフルレノール、フルレノールのようなモルファクチン；D 11

) クレルメコート、ダミノジド、フルルプリミドール、メフルイジド、パクロブトラゾール、テトシクラシス、ウニコナゾールのような成長抑制剤；D 1 2) ブラシノリド、ブラシノリドエチル、D C P T A、ホルクロルフェヌロン、ヒメキサゾール、プロスレル(prosuler)、トリアコンタノールのような成長刺激剤；D 1 3) バクメデシュ(b a c h m e d e s h)、ベンゾフルオール(benzofluor)、ブミナホス、カルボン、塩化コリン、シオブチド(ciobutide)、クロフェンセット、シアナミド、シクラニリド、シクロヘキシミド、シプロスルファミド、エポコレオン、エチクロゼト、エチレン、フフェンチオウレア(fuphenthiourea)、フララン(furalane)、ヘプトパルギル、ホロスルフ、イナベンフィド、カレタザン(karetazan)、ヒ酸鉛、メタスルホカルブ、プロヘキサジオン、ピダノン、シントフェン、トリアペンテノール、トリネキサパックのような分類されていない植物成長調整剤。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

活性成分は、例えば、乳剤(E C)、懸濁剤(S C)、サスポエマルジョン剤(S E)、カプセル懸濁剤(C S)、水分散性粒剤(W G)、乳化性顆粒剤(E G)、油中水型エマルジョン剤(E O)、水中油型エマルジョン剤(E W)、マイクロエマルジョン剤(M E)、油分散剤(O D)、油混和性フロアブル剤(O F)、油混和性液剤(O L)、可溶性濃縮剤(S L)、超低容量懸濁剤(S U)、超低容量液剤(U L)、分散性濃縮剤(D C)、水和剤(W P)または農薬的に許容されるアジュバントと組み合わせた任意の技術的に可能な製剤のような任意の適切な典型的な形態で本開示の発泡性製剤に添加され得る。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 9】

適切な発泡剤は、アルカノールアミド(コカミドジエタノールアミド、ラウリン酸モノイソプロパノールアミド、およびエトキシ化ミリストアミドなど)、オキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン脂肪アルコールエーテル(アルキルアリールポリグリコールエーテルなど)およびフルオロカーボン(エトキシ化ポリフッ素化アルコールなど)を含む非イオン性界面活性剤；アルキル-、アルキルアリール-、およびアリールスルホネート(ラウリルサルコシン酸ナトリウムなどおよびアルキルベンゼンスルホン酸ナトリウムなど)、アルキル-、アルキルアリール-、およびアリールスルフェート、タンパク質加水分解物、ポリカルボン酸の誘導体(アンモニウムラウリルエーテルカルボキシレートなど)、オレフィンスルホネート(アルファオレフィンスルホン酸ナトリウムなど)、サルコシネート(アンモニウムシクロヘキシルパルミトイルタウリネートなど)、スクシネート(例えは、ニナトリウム N - オクタデシルスルホスクシナメートなど)、リン誘導体(リン酸エステルおよびそれらの同等物の塩など)を含むアニオン性界面活性剤；アルキルベンジルトリメチルアンモニウムクロリドを含むカチオン性界面活性剤；ベタインを含む両性界面活性剤であり得る。特に好ましい発泡剤は、バイオソフト D - 4 0 、バイオタージ A S - 4 0 、アンモニックス D O 、アンモニックス L O 、ステオル C A - 3 3 0 、C E D E P A L T D - 4 0 7 、およびポリステップ B - 2 5 である。製剤における発泡剤の総濃度は、用いる発泡剤に依存し得、最終製剤の約 0 . 1 % から約 5 0 % の間、好ましくは約 0 . 3 % から約 3 0 % の間、より好ましくは約 5 % から約 2 5 % 、さらにより好ましくは約 1 7 % から約 2 3 % の間で含み得る。

【手続補正 9】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0117****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0117】****(付記16)**

前記農薬活性成分は、マイクロエマルジョン、水中油型濃縮エマルジョン、懸濁液、懸濁剤、乳剤またはマイクロカプセルの形態で液体農薬製剤中に存在する、付記1に記載の液体農薬製剤。

【手続補正10】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0118****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0118】****(付記17)**

前記農薬活性成分は、懸濁剤の形態で液体農薬製剤中に存在する、付記15に記載の液体農薬製剤。

【手続補正11】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0119****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0119】****(付記18)**

前記懸濁剤は、2年のタイムスケール以上安定している、付記17に記載の液体農薬製剤。

【手続補正12】**【補正対象書類名】特許請求の範囲****【補正対象項目名】請求項7****【補正方法】変更****【補正の内容】****【請求項7】**

前記農薬活性成分は、マイクロエマルジョン、水中油型濃縮エマルジョン、懸濁液、懸濁剤、乳剤、またはマイクロカプセルとして前記液体農薬製剤中に存在する、請求項4に記載の液体農薬製剤。

【手続補正13】**【補正対象書類名】特許請求の範囲****【補正対象項目名】請求項22****【補正方法】変更****【補正の内容】****【請求項22】**

前記農薬活性成分は、マイクロエマルジョン、水中油型濃縮エマルジョン、懸濁液、懸濁剤、乳剤、またはマイクロカプセルとして前記発泡性液体農薬製剤中に存在する、請求項18に記載の溝内の種を処理する方法。

【手続補正14】**【補正対象書類名】特許請求の範囲****【補正対象項目名】請求項27****【補正方法】変更**

【補正の内容】**【請求項 2 7】**

前記発泡性液体農薬製剤の懸濁剤は、2年のタイムスケール以上安定している、請求項18に記載の溝内の種を処理する方法。

【手続補正15】**【補正対象書類名】特許請求の範囲****【補正対象項目名】請求項28****【補正方法】変更****【補正の内容】****【請求項28】**

種が溝に植えられる前、間または後に、機械的プランターから放出される種を処理するための泡として発泡性液体農薬製剤を分配するための機械的プランターであって、

発泡性液体農薬製剤および圧縮性液体担体を受け取るように構成された泡混合チャンバーであって、前記発泡性液体農薬製剤は、少なくとも1つの農薬活性成分、少なくとも1つの発泡剤、少なくとも1つの発泡安定剤、および前記発泡性液体農薬製剤から泡を生成するためのガスを含み、前記発泡性液体農薬製剤中の水の量は、前記発泡性液体農薬製剤の重量に基づき0から10重量%であり、前記農薬活性成分は、マイクロエマルジョン、水中油型濃縮エマルジョン、懸濁液、懸濁剤、乳剤、またはマイクロカプセルとして前記発泡性液体農薬製剤中に存在する、泡混合チャンバーと、

前記泡混合チャンバー内に位置する泡媒体であって、当該泡媒体を介して圧縮液体が前記発泡性液体農薬製剤を泡出口に導く、泡媒体と、

前記泡出口に連結する少なくとも1つの導管であって、前記導管が前記泡混合チャンバー内で生成された泡を搬送ノズルに搬送するように構成され、前記搬送ノズルは、さらに種溝に向けられ、エーカー当たり1ガロン以下の割合で前記機械的プランターから溝に種を植える前、間または後に種を処理するのに有効な量の泡を提供する、導管と、

を含む、機械的プランター。